

三鷹図書館(本館) 上連雀 8-3-3 Tel.0422-43-9151

下連雀図書館 下連雀 6-13-13 Tel.0422-43-9159

東部図書館 牟礼 5-8-16 Tel.0422-49-3851

西部図書館 大沢 2-6-47 Tel.0422-33-1311

三鷹駅前図書館 下連雀 3-13-10 Tel.0422-71-0035

開館時間：9:30~17:00

※三鷹図書館は9:30~20:00、土・日・祝日は17:00まで

※三鷹駅前図書館は10:00~20:00、土・日・祝日は17:00まで

休館日：毎週月曜日・第3水曜日

※下連雀図書館は毎週水曜日・第1月曜日・祝日

<http://www.library.mitaka.tokyo.jp>

みたか子ども読書プラン 2022(仮称)素案の パブリックコメントを実施しています

読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるなど、人生をより豊かに生きるうえで重要なものです。三鷹市では、現在「みたか子ども読書プラン 2022(仮称)」を策定中です。

本プランは「子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年施行)」に規定する市町村子ども読書活動推進計画としての位置づけを持ち、平成17年に「読書に親しむ環境の整備を推進し、子どもたちの自主的な読書活動を支援すること」を目的として策定された「みたか子ども読書プラン 2010」の基本理念を継承しています。

図書館では、平成22年度に子育て支援施設の実態調査、平成23年度にボランティアグループなどへのアンケート調査を実施して、「みたか子ども読書プラン 2010」の達成状況の確認やニーズの分析を行うなど「みたか子ども読書プラン 2022(仮称)」の策定に取り組み、平成23年9月には骨格案を公表し、図書館協議会をはじめとするさまざまな方からいただいたご意見をふまえてこの素案をまとめました。

本プランはゼロ歳から18歳(概ね中学生までを中心)を対象とし、計画期間は平成23年度から平成34年度の12年間です。目的を実現するため、施策(事業)は「子どもが本を手にするしくみ」と「読書の楽しさを伝えるしくみ」の2つの柱に分け、それぞれを拡充・継続の視点から「拡充する取り組み」と「継続する取り組み」の2層構造で構成し実施します。

拡充する取り組みとしては

「団体貸出サービスの拡充」

「中・高校生世代向けのサービスの充実」

「紙媒体の図書リストの活用」など28施策(事業)、

目的

子どもの読書環境の整備
自主的な読書活動の支援

みたか子ども読書プラン 2022

拡充する取り組み

子どもが本を
手にするしくみ

読書の楽しさを
伝えるしくみ

継続する取り組み

継続する取り組みとしては

「資料の充実」

「おはなし会など読書に親しむ活動の実施」

「ボランティア講座の実施」など25施策(事業)を掲げて推進することとしています。

■ご意見の提出は1月26日までに

「みたか子ども読書プラン 2022(仮称)素案」の内容全文は、三鷹市ホームページや各図書館などでご覧いただけます。また、市役所2階の相談・情報センター、各市政窓口などで配布しています。

パブリックコメントのご意見受付は1月26日(木)までです。ご意見は、住所、氏名、電話番号(団体の場合は、所在地、団体名、代表者の氏名、電話番号)を記入し、郵送、ファクス0422-43-0332、電子メール tosh@city.mitaka.tokyo.jp、または直接持参により、図書館へ提出してください。

プランは3月に確定する予定です。確定したプランとともに、提出された意見の概要、市の考え方、修正内容などを公表します。

南部図書館(仮称)基本プラン検討市民会議の提言が提出されました

昨年 12 月に「南部図書館(仮称)基本プラン検討市民会議」が提言をとりまとめ、貝ノ瀬滋教育長に手渡しました。南部図書館(仮称)は、公益財団法人アジア・アフリカ文化財団(以下AA財団)が新川五丁目に建設する建物の一部を借り上げて、市が整備する分館です。同市民会議では、昨年 7 月の発足以来、公募市民、学校教育や地域活動の関係者、学識経験者からなる 11 人の委員が、各々の立場から率直に意見を交わし基本プランを検討してきました。

「南部図書館(仮称)基本プランへの提言及び提案～幅広い世代の多様なニーズに応える魅力ある図書館の整備に向けて」と題した提言では、南部図書館の基本的な考え方を示すとともに、具体的なレイアウト案を提案しています。

【基本的な考え方】

- (1) AA財団との協働による特色ある図書館事業
- (2) AA図書館の貴重資料の一般向け展示公開
- (3) 併設施設の活用による生涯学習機能の充実
- (4) 地域ニーズに配慮した図書館サービスの充実
- (5) 乳幼児から高齢者までゆったり過ごせる空間
- (6) 利用ニーズに合わせた多様な閲覧スペース
- (7) 青少年向けサービスの充実
- (8) 周辺緑化やテラスなど魅力ある空間づくり

貝ノ瀬教育長に提言を手渡す
瀬島健二郎会長(中央)と
高瀬香織委員(右)



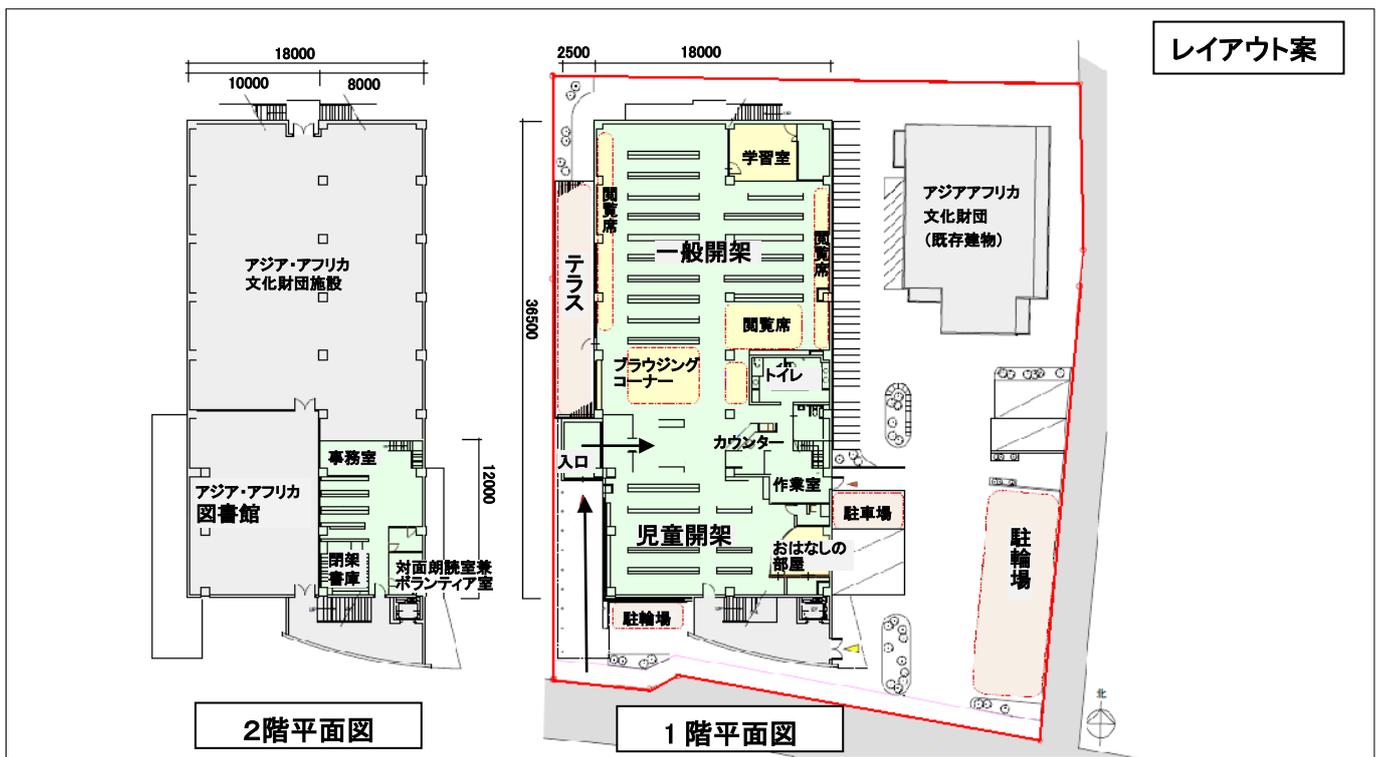
- (9) ICT環境の整備とデジタル資料への対応
 - (10) 駐輪場の確保や周辺道路の安全対策
 - (11) 市民への説明会・懇談会の開催
- 【レイアウト案】(下図)

南北に長い館内での配置上の課題を解決するため、図書館利用者入口を西側にやや奥まって設けることにより、児童開架と一般開架のスペースの間に緩衝地帯となるようカウンターや作業スペースなどを配置しました。また、これによりAA財団施設との利用動線の分離も明確になっています。

2月にパブリックコメントを実施します

市民会議の提言を受けて、現在、市の「南部図書館(仮称)基本プラン」(案)を作成中です。2月にはパブリックコメントを実施します。案はホームページで公表し、各館や市政窓口等で配布します。ご意見の募集期間は2月5日～25日です。

レイアウト案



分館紹介②

東部図書館

三鷹市牟礼5-8-16

東部図書館は、昭和55年5月に三鷹市立図書館の分館として開館しました。場所は、世田谷区に近い三鷹市内の



東部に位置し、東八道路から北に少し入った住宅地の一角にあります。建物は2階建てで、1階には書架が、2階には視聴覚室、事務室等があり、蔵書数は、およそ65,000冊です。

5月にはテラスの藤棚に薄紫色の藤の花が咲き誇り、11月から12月には隣接する植木畑の銀杏の葉が黄色に色づき、来館された方々や職員の心を和ませてくれます。そのような環境の中で、子どもたちに楽しんでもらうため、パネルシアターや紙芝居を取り入れた「おはなし会」を、毎月第1、第2、第4水曜日に開催しています。

近くに三鷹台団地や牟礼団地など大規模な集合住宅があるので、幅広い利用者層を意識した図書館の収集に取り組んでいます。紙芝居や絵本は親子連れに、大活字本は年配の来館者に好評です。

近年は、年間の来館者が15万人以上にもなって

います。近隣の市民のみならず、市境に近いこともあり世田谷区民の方も多数利用されています。さらに多くの皆様のご来館をお待ちしております。

「資料室」へどうぞ

三鷹図書館（本館）の2階に、調べ物ができる専門のスペース「資料室」があります。事典類、各種の地図、新聞各紙縮刷版や、無料で使えるオンラインデータベースなどもあります。三鷹を初めとした地域の資料もいろいろ揃っているので、地域の現在や過去について知りたいときには最適です。担当職員が調べもののお手伝いをします。

◇資料室の本②：懐かしの三鷹の街へ

.....ミニコミ誌『みたかきいたか』



昭和50年代に発行されていた「みたかきいたか」は、街の出来事から、市内の名所探訪、著名人のインタビュー、地域の課題、市議会の審議結果まで、あらゆる話題を市民目線で追う熱気あふれるミニコミ誌。月刊で、1979年11月のNo.0号から当時の各種イベントや映画館のラインナップなど、懐かしい三鷹の街の情報もぎっしり詰まっています。みたか見聞社発行。

図書館のお仕事◎年末年始のブックポスト

通常は目にふれにくい図書館サービスの裏側を紹介するコーナーです

年末年始の休館期間には、毎年、大量の本が各館のブックポストに返却されます。その数は、三鷹図書館（本館）の場合ここ数年1,000冊を超えています。

例年、この期間は数名の職員が交代で出勤して、本を取り出し、貸出情報を更新し、棚に返却する作業を行います。

この作業を行わないと、次々と投函される本でブックポストが詰まったり、内側のボックスに積み重なった本が破損したり、貸出期間が経過した資料の場合には返却してもご自宅のパソコンから新たな予約ができないなど、さまざまな影響が出てしまいます。

三鷹市立図書館では、年末年始の休館中に返却期限が当たらないように貸出期間を延長し、利用者の皆様にも開館後の返却にご協力いただいておりますが、返却冊数の増大に合わせて、今後、さらなる対応を考えていく必要があります。



この写真は、正月明けの1月9日(祝日)の三鷹図書館のブックポスト内側の様子です

